

m a e n o h a

maekawa living magazine まえのは

2025

—早春
号

懐かしさと、新しい出会いの交差点

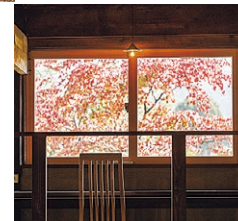




「土肥邸母屋には、何度かふらりと食事にきました。地域のひととゆるやかにつながれる場ができてとても嬉しいです」と佐藤将貴(右)が話すと、「2階のカウンター席も落ち着きますよ。仕事にも最適です」と笑顔で返す川口さん。



上／ワクワク感が高まる入り口。木々に覆われた石の小道の先に、土肥邸母屋はある。右／外の景色を見て季節を感じられるのもいい。



川口 紗緒里

中新川郡立山町／土肥邸母屋

あのひと
の暮らし

訪ねた人：佐藤 将貴

株式会社 縁溜／埜の家 支配人／
里山マウンテンバイクツーリズム 代表

旅の人、地元の人の、 こころの実家に。

富山では、この土地ならではの歴史や風土を受け継ぎながら、日々、新しいまちの魅力が創り出されています。前川建築のスタッフが、仕事や暮らしの中で出会った魅力的な方たちを紹介するこのコーナー。

第8回は、立山町にある旧土肥邸をリノベーションした複合施設「土肥邸母屋(どいていもや)」の女将を務める川口紗緒里さんを、前川建築の一棟貸しの宿「埜の家」のマネージャー兼里山マウンテンバイクツーリズムの代表を務める佐藤将貴が訪ねました。

「旧土肥邸は、かつて地域の方々が集まる公民館のような存在だったそうです。そうした交流の場所を再生するために、前田薬品工業が新しい形として創出しました」と笑顔で話す川

口さん。美しい衣装は、お母様の着物の生地を使ってリメイクしたものだそう。大切なものを新たに生まれ変わらせる、この施設のような衣装である。

土肥邸母屋は、一棟貸切型宿、食事処・惣菜「土肥邸母屋台所」、レンタルスペースを備えた施設である。「第二の実家」のように寛いでほしいという想いが散りばめられている。そのひとつである台所は、誰もが気軽に昼食を味わえる場所。地元の女性たちが真心想めて作った手料理を提供している。その女性たちを「おかん」と親しみを込めて呼ぶ川口さんは、10時の開店前に入り、おかんたちと一緒に準備をし、その後は来客のお出迎えなどを行う。特に15〜16時は、宿泊客と地元の人が入り混じる時間帯。県の内外を超えて人と人をつな



川口 紗緒里

Kawaguchi Saori

富山市出身。砺波市の観光大使の活動を経て、テレビレポーターとして活躍。釣り番組や各種イベントにも出演中。2022年からヘルジアンウッドのサウナ施設The Hiveに携わり、2024年8月から土肥邸母屋の女将に。

下／入り口に入ると、正面の大きな窓越しに庭が広がる。いつ訪れても、絵画のような美しい風景が出迎えてくれる。





上／洋室には、書斎もある。
下／お風呂には希少な天然石、十和田石を採用。



土肥邸母屋(どいていもや)

〒930-3213
富山県 中新川郡立山町日中上野 98番1
<https://doiteimoya.jp/>



右／すぐ近くには、ハーブ園やレストラン、サウナ施設が点在する「ヘルジアンウッド」がある。



川口さんが女将を務めることになったのは、前田薬品工業が運営するサウナ施設「The Eco」を訪れ、目の前に広がるラベンダー畑や遠くの山の美しさに魅せられたのがきっかけ。同社の前田社長に「バイト要りませんか」と直談判。希望が叶い、アルバイトをしながら1年ほど過ごすうち、美しい自然を持つ立山町と同社の取り組みに、より深く関わりたいという思いを深めていった。その気持ちを改めて前田社長に伝えたところ、今の立場を与えられたという。そんな川口さんと佐藤が初めて出会ったのは2021年頃。

川口さんが、複数人でeバイクを体験した後、「塾の家」を見学した時のことだ。築約130年の塾の家も、かつては公民館のように地域の人々に利用されていた住まいだった。「この地域にこんなに素敵な場所があることに驚きましたね。また、自分の足で山を越えるという特別な体験もできました。その後も何度か佐藤さんにeバイクを案内していただいて、改めて立山町の楽しさをもっと多くの人に伝えたいと思うようになったんです」と回想する川口さん。佐藤は、その言葉を受けて「この周辺には縄文の遺跡がたくさん埋まっています。

光の当て方を変えたらいろいろな物語が眠っているの、まだまだ魅力的な体験を提供できると思います」と、立山町のポテンシャルの高さを話す。川口さんは、これから全国各地で土肥邸母屋をPRしていく予定だ。「立山町が大好きです。観光客の方はもちろん、平日にビジネスで県外から来られる方にも土肥邸母屋を体感いただき、この地域の良さを知ってほしいですね。そして、いずれは佐藤さんのようにアテンドにも挑戦してみたいです。『女将と散歩』とか(笑)」と語る。川口さんの立山愛は、まだまだ止まらない。✿



上／Wi-Fiやコンセントを自由に使えるのも土肥邸母屋台所の魅力。コーヒーを飲みながら仕事ができる。



上／台所のカウンターで食事をすることもできる。また、おかんが作ったお惣菜をテイクアウトで購入することも可能。下／小上がりにあるソファでゆったりと寛ぎながら、おかんたちの手作りの味を楽しむのもいい。

ぐのが、川口さんの役割だ。「ここは、会話を楽しみながら立山町を体験できる場所。型にはまった接客ではなく、できるだけご要望を素早く察知し、一人ひとりに心地良い時間と場所を提供できるように心がけています」と川口さん。実家に帰るような気持ちで訪れ、初めての人も温かい交流を育める。

なかでも川口さんの思いが表れているのが、素材にこだわったアメニティ。「以前から、ホテルのアメニティを1回切りで捨てることに抵抗感があったので、もったいないなと思っていました。ここでは使い捨てのものではなく、ご自宅でも長くお使いいただけるよう、天然素材の歯ブラシや櫛、ボディタオルなどを採用しています。また、土肥邸母屋台所では旧土肥邸にあった器などを使用するなど、物を大切にする気持ちで、この施設の根底に流れている。



1 January

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
			1 元日	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13 成人の日	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 February

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 建国記念の日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	

3 March

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20 春分の日	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

4 April

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29 昭和の日	30			



玄関ドアを開けて中に入ると、正面に大きな窓がある。その向こうには田園から剱岳まで美しい風景が広がっている。T様邸は、ご夫婦が大好きな山を見ながら暮らせる住まいだ。その眺めに「癒されます」と笑顔を見せるご主人。リビングだけでなく、キッチンの窓からも同じ景色を楽しめる。「ここに暮らしてから、季節の移り変わりをより感じるようになりました」と奥様も微笑む。

そんなお二人の共通の趣味はキャンプである。景色を重視して場所を選び、長野や岐阜、山梨などに足を伸ばしたという。キャンプに付き物の焚き火をするうちに、ゆらめく炎に魅了されたご主人。リビングの一角にはペレットストーブがある。冬になると炎を眺めながら、ご主人はお酒を飲み、奥様はソファで寛ぎ、お子さんはおもちゃで遊ぶ、というふうにひとつの空間で思い思いに過ごすことが多い。お子さんは徐々にペレット

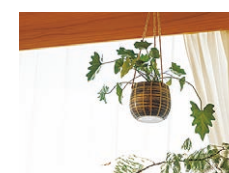
ストーブに興味を持つようになり、今ではお手入れなどを手伝うようになった。お子さんの健やかな成長にも役立っている。

庭は、お手入れの行き届いた芝生が印象的。ご主人が自ら芝を張り、月に1回は刈っているという。その一角には、奥様が植えたミモザやスモークツリー、オリブがすくすくと育っている。夏、お子さんはプールで水遊びをした。家族や友人と一緒にバーベキューも楽しんだ。庭はたくさんの思い出を生み出している。

「これからは、小さいテントを買って庭で泊まってみたいですよ」とご主人。奥様は「緑をもっと増やしたいですね。そして、いつか家庭菜園で野菜を育てて、子どもに食育ができたらいな」と瞳を輝かせる。剱岳の雄大な姿を眺め、緑に囲まれながら過ごす日々は、ご家族の心を豊かに育んでいるのだろう。だから、好奇心が膨らみ、未来への夢が尽きない。✿



tips:4
レトロなデザインのスイッチプレートに、各場所を英字で表記。分かりやすくおしゃれに。



tips:3
日当たりの良い窓際に植物を吊って、空間に癒しをプラス。入居後にフックを取り付けた。



tips:2
玄関にアウターなどをかけられるパイプを事前に設置。濡れたスキーウェアを乾かすのにも便利。



tips:1
壁面の一角に家族写真を飾って、ギャラリーのように。木製のフォトフレームで統一感を創出。

1. キッチンや建具、窓枠など、木の温もりに満ちたLDK。リビングには吹き抜けを設けて、光と風の入る開放的な空間に。ウッドデッキへの出入りもスムーズ。2. 玄関からの眺め。ホールの浮造りの床も心地いい。3. 玄関の収納は、キャンプに出かける際にアウトドア用品をすぐに取り出せるよう、「見せる収納」に。4. 「この子はよく虫を探しているんですよ」と、お子さんを温かく見守りながら笑顔を見せるご主人。5. 奥様はキッチンもお気に入り。「目線の高さに合わせて、近くに紅葉を植えていただきました。この紅葉からも四季を感じられます。念願のタイル張りも叶いました」と微笑む奥様。

あの家の 住まい方

中新川郡・T様邸
2022年新築

Housing
tips



©Nobuaki FUJII

立山町利田にて「sun-kyo」プロジェクトに取り組んでいます。

富山県内、立山町にも住み手がなくなり手入れがされなくなった屋敷林が数多く見られます。「sun-kyo」はそういった場所に再び息を吹き込み新たな光を当てたいという思いから、なるべくその土地の形状や植栽を活かして新しいコミュニティを創り出すプロジェクトです。

広い敷地に散らばって暮らす4棟の住まいと各棟に小屋、程よく近所付き合いができる共有スペース(共有部分)を計画。見学は随時受付しておりますので、お問い合わせください。



ホームページ

2025年
6月
完成予定

スタッフ紹介

MAEKAWAグループのスタッフに、休日の過ごし方や、お気に入りのモノ・コトを聞きました。

Taisuke Miyazaki

宮崎 泰輔

● 前川建築大工

大工になって、今年で8年目。「常にお施主様のことを考えながら手を動かす」をモットーに、木造住宅の施工に取り組んでいます。休日は、県内の漁港や海岸に出かけ、海釣りをして過ごすことが多いです。時間の許す限り、好きなだけ楽しんでいきます。2年前の夏から始めましたが、これまでの趣味の中で一番自分の性に合いました。頭の中が無くなり、リフレッシュできるので、やめられません。季節の変化を感じながら自然と遊べることや、日の出や日の入りの美しい空を見られることも釣りの魅力です。



お気に入り

自分の好きな道具を使って遊べるところが釣りの醍醐味かもしれません。

平日も休日も
ひとつのことに
夢中になる喜び。



Ryui Nakagawa

中川 隆司

● niwanoso 大工

1歳半になる娘が、とても可愛くて。日々の暮らしの中で、家族との時間を大切にしています。休日には公園で遊んだり、買い物に行ったりと、愛娘と一緒に過ごすことが私の大きな喜びです。もちろん、仕事も大切。ウッドデッキ・フェンスの施工を担当する者として、「きれいな仕事」を心がけています。これからもっと腕を磨き、小屋や物置などの施工にも挑戦していきたいですね。家庭と仕事をうまく両立しながら、建築大工技士の資格取得も目指しています。まずは2級、次に1級を取得したいです。



お気に入り

8年ほど愛用しているiPhone8+。マンガやゲームを楽しめるだけでなく、娘の写真や動画がいっぱい入っているからです。仕事の休憩時間によく見えていますね。

休日を共に過ごす
娘の存在が
仕事の原動力。



編集後記

新たな年が始まりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今年はインフォメーションページでもご案内しているsun-kyoプロジェクトが本格始動します。6月のオープンに向けて、いろいろ活動しております。完成時には皆さまにもぜひ見ていただきたい楽しい場となる計画ですので、楽しみに。

本年も素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。新たな一年もどうぞよろしくお願いいたします。



m a e n o h a 2025 早春号

2025年1月1日発行

企画・取材・文／まえのは編集部

編集／広報部

写真／松井 洋貴

イラストレーション／おざわ さよこ

エディトリアルデザイン／ワークス

発行／MAEKAWAグループ

〒930-3221 富山県中新川郡立山町四谷尾691-4

Tel : 076-462-0611

<https://maekawa-kenchiku.com/>



表紙写真：土肥邸母屋、庭の植物